

### 全国表彰 PTA新聞 『やはた』

昨年度発行された本校のPTA新聞「やはた」が全国小・中学校広報部コンクール小学校部で★佳作★として表彰を受けました。

8月27日、千葉県幕張にて授賞式が行われました。【広報誌とは？】という話の中で三つの役割

①PTA活動 子どもの活動の中で関係者間を結びメディアとして色々な考えを共有し、問題を解決していく。

②地域を結ぶ活動 学校の様子・情報を提供するコミュニケーションとしていく。

③紙上の記録 PTA活動・活動の記録・学校の歴史等、日々の取り組みを生き生きと伝える。

今回の会に出席して、改めて、学校・地域・家庭の三つを結び要としての広報誌の役割というものを学びました。昨年度の広報部員同様、本年度の広報部員もPTAの皆様楽しんで読んでもらえる紙面作りをめざしています。



### 給食室へ潜入!



### の巻~

子どもたちが毎日楽しみにしている給食... 栄養バランスがよいのは献立表を見たら分かるけど... 気になること、アレコレ聞いてみました。



左から、栄養技師の有里厚子さん、竹由美さん、池水和子さん、米沢恵子さん、栄養教諭の石踊り先生

鹿児島市内でも学校に併設している給食室は珍しいそう。八幡小の児童六八二人分と先生方の給食を作ってくださいるのは、栄養教諭の石踊り先生をはじめ、四人の給食技師さんです。

食材は地産地消を心掛けてのことですが、米と肉は鹿児島産です。大豆は国産、魚は冷凍物は一切使っていません。野菜は吉野に大きな畑があり、小松菜や青梗菜等は、この畑で収穫したものを使用しています。野菜は鹿児島産(国産)というのには難しいです。いんげん、枝豆はタイ産、ピーナツはオーストラリア産等、外国産も一部ありますが(市から中国産は使わないように指示があります)、国産100%を目指しています。

また、45分間の給食時間ですが、準備・片付けの時間で行けるだけ短くし、食べる時間を長くとりたくしています。給食を完食することで自分に自信がもてたり、生活リズムも整ってきますね。毎月、献立表の裏面に載っているメニューも、是非子どもさんたちと一緒に作ってみてください。



夏場は酢の物等ツツパリしたものを、また、直前まで冷蔵庫で冷やしておくそうです。

GWを境に残食が増え、涼しくなると減ります。残食について、準備・片付けの時間で行けるだけ短くし、食べる時間を長くとりたくしています。給食を完食することで自分に自信がもてたり、生活リズムも整ってきますね。



最後の区域別対抗リレー(男女別)では、小学一〜六年、中学一〜三年、十〜四十年代、主力者一名、計十四名の幅広い年齢層の走者が出場。大きな声援を背に受け、バトンを繋いでいきました。どの競技も各支部一丸となって熱戦を繰り広げ、地域の強い結びつきを感じられた運動会でした。



十一月二十日、秋晴れの下の八幡校区歩こう会が開催されました。本校の先生方をはじめ、一五〇名を超える親子や地域住民の方々が参加し、約四・五kmのコースを個々のペースで会話を交えながら歩きました。これまで知らなかった地域の歴史、気付かなかった

子どもたちの音楽教育に役立ててほしいとのことで、「おやじの会」からエレクトーンを寄贈していただきました。早速、音楽学習等で活躍中とのこと。子どもたちの成長を静かに見守ってくださることを願います。本当にありがとうございました。

子どもたちの音楽教育に役立ててほしいとのことで、「おやじの会」からエレクトーンを寄贈していただきました。早速、音楽学習等で活躍中とのこと。子どもたちの成長を静かに見守ってくださることを願います。本当にありがとうございました。

発行 八幡小PTA広報部 鹿児島市下荒田三丁目25-1 TEL 099 (255) 5136 児童数 682名/P戸数 551戸



# やはた

- 目次●
- 1面 笑う子育て 専門部から やばと
- 2・3面 特集 疑似体験から学ぶ ~共生社会を考える~ マミーズ探検隊が行く! ~給食室潜入編~ 八幡人物伝 ~松方正義編~ 大人版つよや旬大賞発表! 全国広報紙コンクール表彰式報告 校区活動報告他
- 4面



## 笑う子育て

子どもへの一首 どのようないのちのつばいには歩く道 どのようないのちのつばいには歩く道 どのようないのちのつばいには歩く道

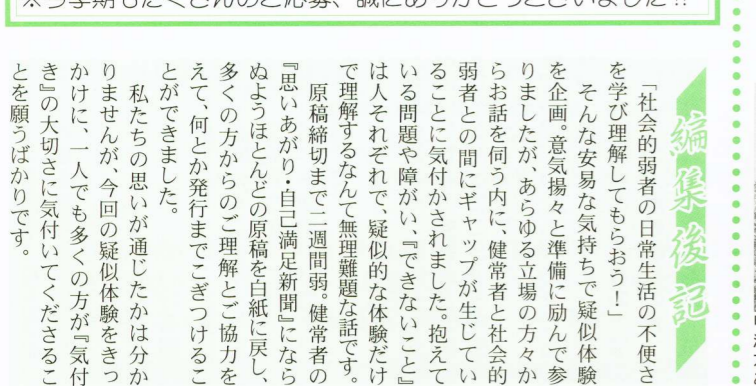
お母さん・お父さんの 口ぐせ調査 この口ぐせ調査から見えてくる『お父さん・お母さん方の望むいい子ども像』は、次のようなものではないでしょうか。

明日の用意したの? 早く寝なさい。 早く起きなさい。 早くお風呂に入りなさい。 どうして弟妹とケンカばかりするの? こんなにちらかして、片付けなさい。 早く終わらせなさい。 早く遊ばなさい。 早く帰ってきなさい。 早く寝なさい。 早く起きなさい。 さっさと勉強しなさい。

笑いのある 子育てのポイント ○子どもの発想の豊かさは大人の遊び心から生まれる ○子どもとつながり、勇気を与えてくれる。 ○子どもはいつも「いい子」でなくていい。 ○笑いがある子どもの生きる力を育てる。 ○柔らかな感性を大事に子どもと向き合う。

第二回 大人版つよや旬大賞発表!! 最優秀賞 クリスマス 昔は主役 今、黒子 (6-3 福田 尚子様) 優秀賞 さつまいも オイもワイも 食べようよ (2-2 彩愛 mama ☆様) ユニーク賞 クリスマス 部屋も家計も 真っ赤か (2-2 湯之上道代様) ※今学期もたくさんのご応募、誠にありがとうございました!!

八幡人物伝 編後記 「社会的弱者の日常生活の不便さを理解してあげよう」というような安易な気持ちで疑似体験を企画。意気揚々と準備に励んで参りましたが、あららら立場の方々からお話を伺ううちに、健常者と社会的弱者との間にギャップが生じていることに気が付きました。抱えている問題や障がい、できないことは人それぞれで、疑似体験だけでは理解するなんて無理な話です。原稿締切まで二週間、健常者ならぬうよと、自己満足新聞にならぬよう、多くの方からの原稿を白紙に戻し、多くの方からのご理解と協力をえて、何とか発行までこぎつけることができました。



父正恭母要子孫の四男 十三歳にして両親を亡くしたが、日置流の弓術を学び、示現流の剣術を修業。奥義を究め文武に精励した。

明治十八年の伊藤内閣で蔵相として入閣、続く黒田・山縣内閣に留任、明治二十四年、第一次松方正義内閣で首相となり、蔵相を兼任。明治二十九年、第二次松方正義内閣で、経営予算の実現と、金本位制を確立させた。その後、「我に奇策あるに非ず」唯正直あるのみを信じて、国政に参与し、国力の充実と財政基盤の安定に大きな役割を果たした。



# 「気付く」ことが はじめの一歩

現在の日本における六十五歳以上の高齢者は約二五〇〇万人、総人口の20%以上を占めています。これが、二〇五〇年には総人口の40%を越え、世界に類を見ない速さで高齢化が進むとされ、今後私たちがとりまく社会情勢は大幅に変化するものと考えられます。

社会的弱者といわれている高齢者がいをもつ方々が、住み慣れた環境の中で、その人らしく生活を営むには、あらゆる行政の社会的支援に加え、私たち一人ひとりが問題意識をもつことが重要です。

全ての人間が共に生活できる社会、「共生社会」を実現するには、私たちは何をすべきか、何が出来るのか、疑い体験を通して、支援する側、される側の双方の立場に立ち、「一方的な支援」という形ではなく、相手が求める支援とは何かを考えてみたいと思います。

十月八日に行われた、八幡小学校PTAバザーにて、本校児童及び保護者、ご来場いただいた方々を対象に、各種疑似体験器具を装着した、四種の疑似体験を実施しました。



## 視覚障がい者体験

- 目の見えない人は、すごくがんばって足と杖を頼りにしているんだなと思いました。私は障がい物にぶつかってしまいました。(2年)
- 次に何があるのかわからなくてとても怖かったです。目が見えない人がいたら声をかけてあげたいです。(5年)

## 八幡マミー's隊



## 高齢者体験

- 自由を奪われた感じがした。(5年・4種体験)
- 重り(装具)が重くて体が痛かった。また、メガネのせいで前が見えにくかったので、ますます歩きにくくなった。(6年)
- いつかは自分もこんな風になるのかなあと思うと、今の内から足腰を少しでも鍛えておこうと思いました。(保護者)

## 傍観者効果

人間には「傍観者効果」という心理が働くそうです。傍観者効果とは、社会心理学の用語の集団心理の一つで、人間は集団の中に行くと行動力が落ちる心理のことをいいます。

## こんな時、あなたならどうしますか？ の法則

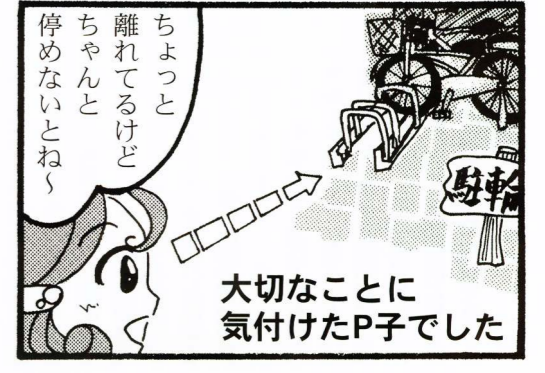
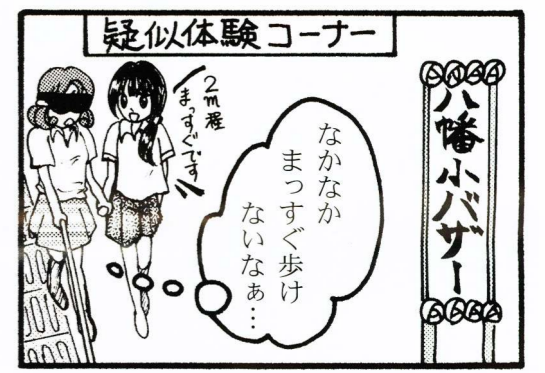
人通りの多い歩道を歩いていると目の前で老若が段差につまずいて転んでしまいました。なかなか立ち上がりません。

①すぐ駆けつけて、「大丈夫ですか？」と手を差し伸べる。  
②気にしつつも、『誰かがしてくれないかな…』と見守る。

人が多ければ多いほど②の行動をとりがちになるという心理が傍観者効果です。これは以下の3つの考えによって起こるそうです。

- 多元的無知…他者が積極的に行動しないことによって、事態は緊急性を要しないと考える
  - 責任分散…他者がいると、自分がしなくても誰かがするだろうと責任が分散される
  - 評価懸念…行動を起こした時、その結果に対して周囲からのネガティブな評価を恐れる
- これらの心理が原因か、1964年ニューヨークで、自宅前の駐車場で女性が暴漢に襲われ大声で助けを求めましたが、その叫び声に気づいた38人の近隣の住人達は約30分もの間、誰一人として助けに行くことも、それどころか警察に通報すらしなかったそうです。結局女性はナイフで数箇所刺され殺害されました。
- 《キティ・ジェノヴィーズ事件》
- 事件・事故に限らず、傍観者効果はPTAでも同じことが言えるのではないのでしょうか。「誰かがやってくれる」そんな他人任せで無責任な心理に翻弄されずに、常日頃から親身が子どもの見本となるような行動を示していきたいものです

## 小さい事から始めよう！ Vol.5



## 車いす体験

- 一人では乗りこえられない段差もあった。二人なら大丈夫。(5年)
- 車いすに乗っている人の気持ちがいさだけ分かった。また、高い段差等がたくさんある街では、車いすの人は過ごしにくいと思った。また、押す人(介助者)は、気遣わなくてはならないので大変だと思った。(5年)
- 段差が多すぎて進みづらかった。もっと町や道の段差を減らしてほしい。一人で暮らしている人は大きな段はどうやって越えるのかなと思った。(5年)
- 小さな段差が大きく体に響き、びっくりしました。何でも体験してみないと車いすに乗っている人の気持ちが分からないものだなと思いました。早くハンディキャップのある方にやさしい街づくりがなされるのいいと思います。(保護者)



## 視覚障がい者の立場から

### ～アイマスクの使用について思うこと～

この種の講座に強く望みたいことは、障がい者は『何ができないのか』ということと併せて、『何がどこまでできるのか』といったことを正しく伝えてほしいということです。

はっきり言えば、視覚障がい者は一般に、『見る以外には全部できる』ということです。アイマスクの体験(視覚障がい者体験)では、「見えないって恐ろしい!」ということになって、全然違う人間像ができてしまっています。

視覚障がい者の一番の障害は、『見えない』ということではありません。見えない人が、仕事や社会生活に参加する上で困難がある、そういう社会のシステムや構造そのものが『障害』の本質だと思います。

アイマスクの使用で、見える人たちの目をふさいでしまうと怖さばかりが強調されて、こういった大切なところが見えなくなってしまうのではないかと心配しています。

[http://homepage3.nifty.com/03moko/text/d\\_jmask.html](http://homepage3.nifty.com/03moko/text/d_jmask.html)

## 下肢障がい者の立場から

私は、大学一年生の時に交通事故で背骨を骨折しました。背骨の中には脊髄という神経があり、皮膚などの感覚を脳へ伝え、脳からの指令を筋肉へ届ける働きをしています。私は骨折により、この神経が切れてしまい、両足の感覚がなくなり、足を自分で動かすことができなくなりました。それ以後、車いすを使って生活しています。では、車いすで困ることは何でしょうか？

## 車いすで困ること

皆さんが想像されるとおり、車いすは段差に弱いので、街で階段に出くわすと困ります。お店で欲しい商品があっても高いところにあると届きませんし、通路が狭いと商品までたどり着けません。しかし、これらの問題はそんなに困ることはありません。なぜなら、人に助けてもらえばいいからです。階段は周りにいる人に頼めば抱えてもらえ、商品は店員さんが取ってくれます。本当に困ることが他にあるのです。それは、トイレの問題です。私は、事故のせいで足が動かない、感覚がないという障がいだけ

でなく、おしっこや大便が我慢できず漏らしてしまうという障がいももっています。おしっこや大便は、だれかに代わりを頼めるものではないし、人に手伝ってもらえないものです。車いす使用者のことを理解する方法のひとつに、車いすの体験があります。車いすに乗ってみると、段差や狭い場所、車輪を取らざる砂地や砂利道等、いわゆる街のバリアを体験でき、それが車いす使用者の困ることの全てではありません。トイレがない場所や、間に合わず漏らしてしまった時のあせりや、間に合わず漏らしてしまっただけのあせりや、間に合わず漏らしては理解してもらえません。

## 前田 究さん

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会  
前田 究さん  
京都府出身 1971年生まれ  
鹿屋体育大学陸上部卒業 (本校保護者)  
鹿児島県障害者スポーツ協会  
鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会  
鹿児島県障害者陸上競技連盟  
鹿児島県卓球バレー協会 所属



高校時代、専門は幅跳びで7M13という記録をもつ。オリンピック出場を目指し、鹿屋体育大学に入学。入学後まもなく交通事故に遭い、車いす生活を宣告され絶望の淵へと突き落とされるが、車いすマラソンと出会い再びアスリートの道を目指す。1998年にイギリスで開催された国際ストークマンデビル車椅子競技大会の日本代表に選ばれる。現在は、障害者の自立、社会活動を支援する活動や環境づくりに意欲的に取り組む。

## 妊婦体験

- とても重くてしゃがむのが難しかったです。(小3)
- ものすごく重かったです。いたわる気持ちももち続けたいと思いました。(保護者)



## “話し相手”を求める高齢者

地域で声かけや見守りを 鹿児島市山下町かこしま市民福祉プラザ内にあるボランティアセンターにお伺いし、ボランティアコーディネーターの寺原芳子さんに話を聞きました。

昨今の社会動向から、鹿児島市内においても核家族化が進み、一人暮らしや夫婦二人暮らしの高齢者世帯は年々増加しているとのことです。それに伴い、県外に居住する子どもさん方から、親の安否を確認してほしい等といった相談内容も増えているそうです。

また、快適な在宅介護を続けるために、日常生活のお手伝いをホームヘルパーさんをお願いする一方で、介護保険の対象外である「話し相手」を求める利用者(高齢者)も多くいらっしゃるそうです。これは普段

## ボランティアコーディネーター 寺原芳子さんに聞く

寺原芳子さん  
ボランティアコーディネーターとはボランティア活動を行いたい人とボランティアの応援を受けたい人(コーディネーター)又はその立場をい

からの近所付き合いの希薄さの影響もあって、また、ご本人が周りの人に自分から話や相談ができない等といった性格的な要素もあって、それだけに、「遠くの親類より近くの他人」といった、近所同士の声かけや地域の見守り、結びつきがこれからはますます重要になってくると言えるでしょう。

ボランティアコーディネーターとはボランティア活動を行いたい人とボランティアの応援を受けたい人(コーディネーター)又はその立場をい

奇遇にも、お子さんが本校の卒業生のこのことでした。



## 共生社会

疑似体験を実施するにあたり、高齢者や障がいをもつ方々、また、支援するご家族や関係機関に從事する方々から直接お話を伺うことで、社会的弱者の立場にある方々を支えるためには、社会全体がその自立生活を支える仕組みをつくり出すことが重要であることに気付かされます。共生社会への第一歩は、この「気付く」です。相手の思いを直接聞き、そして受け入れようとする心です。人はしばしばこの努力を怠り、自分なりに解釈をして、相手を理解したつもりになりがちです。このような自己基準による思い込みは、時に相手を傷つけることにもなりかねません。

相手の特性を知り、そして理解し、固定観念をもたず、相手を観念をもたず、相手を尊重することこそが、『真の共生社会』

## 実現に向けて

と云えるのではないのでしょうか。差別や偏見の無い住み良い社会をつくるには、私たちの意識を変えなければ何も変わりません。全ての人が快適に、共に生活していける環境づくり。そこに意識を向けることで、今まで見えなかった様々な思いや課題が自然と見えてくるものです。

また、一人暮らしの方を孤立させない地域の取組や、日々の何気ない声掛けや日常の挨拶など、私たちができる小さなことから目を向けていきたいと思います。高齢者や障がいをもつ方々にとって住みやすい街は、子どもが育つ上でも良い環境と言えるのではないのでしょうか。地域と共に育つ子どもたちは、豊かな心が育成され、「生きる力」を自然と身に付けていくことでしょう。

# 共生社会実現化プロジェクト発動!!

伝えてください。親から子へ「思いやり」のリレー